

科目名	音楽制作特論			科目コード	1901
開講学科	音楽学科	単位数	4	形態	講義
教員名	志村 哲				
授業の目的及びテーマ					
地球上のすべての人々は音楽を奏でている。その意味で、音楽を持っていることは、人類の証である。音楽には様々な目的や機能があり、歴史的に様々な方法が試みられてきた。また、音楽は社会との関わりの中で育まれるものでもあり、それぞれの時代の環境、経済、科学と技術等によって支えられている。本講義は、音楽学や音楽理論の枠組みに留まらず、諸学問を参照しつつ、音楽創作の伝統における未来を切り拓いていけるものの考え方を身につけることを目的とする。					
授業概要					
本科目は、通信教材による学習（2単位）と、スクーリングによる講義の受講（2単位）で構成されている。通信教材では、おもに音楽の制作をその原理、背景、技術、そして未来への展望にわけて、理論的な枠組みを提示する。一方、面接（スクーリング）においては、次の3つの領域を取り上げ、歴史的事例の分析と評価および、新しいメディア／テクノロジーの応用に関わる方法とそれらの諸問題を考察する。 1. 音楽創作の伝統における変化 ― 日本音楽（邦楽）を中心として 2. 制作技術の歴史 ― 音楽とテクノロジーとの関わり 3. 音楽制作の多様化 ― ITとの関わり					
授業計画					
第 1 回：面接授業に関わる授業の概要説明、テキストの紹介と解説および、思考の枠組みの提示 第 2 回：日本音楽の伝統における変化の諸相について 第 3 回：日本楽器の構造の歴史的変遷および、分化について 第 4 回：尺八音楽における音楽種目の歴史的拡散の様相を実演を交えて考察する 第 5 回：こんにちの日本社会における邦楽器とその演奏家の現状とこれからについて 第 6 回：20 世紀楽器としての電子楽器の歴史と音楽の盛衰 第 7 回：テルミンとオンド・マルトノにみる初期電子楽器発明の歴史的意義 第 8 回：人間による演奏が困難な音楽の創作と電子音楽との関わり 第 9 回：コンピュータ音楽とライブ・エレクトロニック・ミュージックの発想 第 10 回：21 世紀楽器に求められる要件について考察する 第 11 回：「ミュージックス」の考え方と音楽の社会的応用のあり方について 第 12 回：音楽情報処理の歴史と成果 1「音楽分析とその解釈」 第 13 回：音楽情報処理の歴史と成果 2「音響合成と創作の諸相」 第 14 回：自動演奏装置の歴史とその技術および、社会的機能／価値について 第 15 回：近未来の音楽創作における IT、AI、VR の応用について					
テキスト	WEB 教材「音楽制作特論」 端山貢明 制作（大阪芸術大学配信）		参考文献	参考資料として、適宜、プリント資料を配布する。	
評価方法：					
通信授業は提出課題 4 件を以って評価する。 面接授業は受講態度、授業中提出物などにより総合的に評価する。					